

まっぼっくり

令和8年度
学校だより
加古川市立尾上小学校
第4号

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について

処暑の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、今年度の全国学力・学習状況調査は、小学生は6年生を対象に、「国語」・「算数」の学習状況と児童・生徒の学校や家庭での生活習慣や学習環境等についての調査が行われました。今回の調査結果は、児童の学力の限られた部分ではありますが、届いた結果をもとに、学習や生活の指導に活かせるよう、教職員全体で調査結果を分析して話し合いをもちましたので、分析の結果と今後の方針をお知らせいたします。

Ⅰ. 教科に関する調査（国語・算数）について

国語

☆概ね力がついていたこと

- ・相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。

☆これから力をつけていきたいこと

- ・今まで学習した漢字を、文の中で正しく使うこと。
- ・引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができること。



算数

☆概ね力がついていたこと

- ・体積を求める式、数のきまり、帯グラフの読み方などの基礎的な知識。

☆これから力をつけていきたいこと

- ・割合についての理解。
- ・二次元の表から、条件に合う数を読み取ること。
- ・問題を読み解き、自分で筋道を立てて考え、その結果や理由を表現すること。



国語・算数ともに、目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報を用いて自分の考えを表現したりすることが苦手な傾向が明らかになりました。また、授業で学んだ内容を確実に身につけ、それを使って問題を解くことにも課題が見られました。

今後、全学年において、学校の学習の中で複数の情報の中から必要なものを選び、それを用いて自分の考えを効果的に表現したり、他者の意見を効果的に取り入れ自分の考えを高めたりできる「わかる学力」の育成を目指していきます。また、引き続き基礎学力を定着させるとともに、学習した内容を活用する問題への取組も進めていきたいと考えています。さらに、児童が自ら進んで学習に取り組むことができる態度の育成や、個々に応じた学習への取組についても、クロムブックも有効に活用しながら、研究を進めていきます。

2. 生活や学習の状況（児童質問紙）について

(1) 自己有用感・自尊感情・規範意識等に係る項目

- ・「自分にはよいところがある」と回答した児童は 88.6%、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」と回答した児童は 96.2%で、兵庫県や全国の割合を上回っています。今後も児童一人ひとりの個性を認め、自己肯定感を高めていきます。
- ・「友達関係に満足している」と回答した児童は 96.2%、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童は 94.3%、「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童は 90.5%と高い割合となっています。「先生は自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は 92.3%、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童は 77.1%でした。今後も安心して学校生活を送ることができるよう、より一層、教育相談に力を入れていきます。

(2) 生活リズム・生活習慣にかかわる項目

- ・「朝食を毎日食べている」と回答した児童は 77.1%で、県や全国の割合を下回っています。また、「毎日同じぐらいの時刻に起きている」、「毎日、同じぐらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合も下回っており、ご家庭と連携しながら、規則正しい生活リズムの定着を目指していきます。

(3) 学習に対する状況

- ・平日、学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上勉強をしている児童は 38.2%で、兵庫県や全国の割合を大きく下回っています。また休日、1日当たり1時間以上勉強をしている児童は 20.0%で、兵庫県や全国の割合を大きく下回っており、学校以外での学習時間には、大きな差があることが分かります。また、平日、1日当たり1時間以上スマートフォンなどで SNS や動画視聴をしている児童は、64.8%で、兵庫県や全国の割合を上回っており、学習時間が短くなっていることの一因となっていると考えられます。進んで学習に取り組むために効果的な取組をより一層推進していきます。
- ・読書については、学校の授業時間以外に1日当たり30分以上読書をしている児童は 22.9%で、兵庫県や全国の割合を下回っています。今後、学校や家庭において読書習慣を身につけていけるような取組を進めます。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていると回答した児童は 74.3%、自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童は 76.2%で、兵庫県や全国の割合を下回っています。多様な考えにふれることで、自分の考えをさらに深めていけるように、学習だけでなく、学級活動や学校行事等を含めた学校教育全体での実践を一層推進していきます。

「自分にはよいところがある」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童が多かったことは、本校が目指している「やさしさと思いやりのある学校」の実現に向けて進んでいると感じました。一方、昨年度に引き続き、生活リズムの方では元気に学校生活を送るために必要と思われる条件についての肯定的な回答が少なく、心配が拭えない結果となりました。夏休みが終わって、ご家庭でも生活リズムが整っているかについて、お子様とぜひ話し合っただけたらと思います。

上記に掲載しておりませんが、GIGA スクールで導入された一人一台端末を尾上小では授業でも活用し、確実に活用する能力が育成できていることが児童の回答から明らかとなる結果でした。今後は、一人ひとりを大切にしたい個別最適な学びの実現に向けてさらに研究を進めてまいります。

これからもご家庭と連携しながら「進んで学び たくましく生きる 心豊かな尾上っ子の育成」に取り組んでまいりますので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。